

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)		分野・領域	項目数	「できている」項目数 外部評価	
<p>ホームは広い敷地の中にあり幹線道路、小学校、住宅、商店が近く利便性に恵まれている。また、障害者の方との共生型ホーム(高齢者と知的障害者)であり、「人」対「人」の自然な支えあいの良好な関係が築かれ、温かな家庭的な雰囲気が感じられた。設立時より職員が一丸となり取り組む努力が入居者の活気ある笑顔や会話から感じられた。ホーム内もゆったりとしたスペースがあり、リビングに続く広いベランダにもテーブルと椅子が置かれている。夜は障害者の担当職員の宿直があり二人体制になり、入居者の安心感につながっている。家族会があり協力体制ができている。</p>		I 運営理念			
		①	運営理念	4	3
		II 生活空間作り			
		②	家庭的な生活環境づくり	4	4
		③	心身の状態に合わせた生活空間づくり	6	6
		III ケアサービス			
		④	ケアマネジメント	7	6
		⑤	介護の基本の実行	7	6
		⑥	日常生活行為の支援	8	8
		⑦	生活支援	2	2
III ケア サービス	<p>高齢者の方や障害者の方などすべての方に関わっていきたいという理念のもとに、職員の統一したケアが実践されている。現在ケアプランの見直しを検討中である。記録の整備とアセスメントを活かし個別のケアの充実を期待したい。自己評価をすることにより認識の違いを知ることができ、そのことの意味が大きいと話された。</p>	⑧	医療・健康支援	9	9
		⑨	地域生活	1	1
		⑩	家族との交流支援	1	1
IV 運営体制					
IV 運営体制	<p>運営推進委員会の実施で行政、地域、家族との交流が深まっており積極的に取り組んでいる。職員は研修会にも多く参加しているが、内容が皆に周知されていない。共有し統一した認識を持つために早急に取り組んでいただきたい。尚、チームワークが良いことを職員は感じており、今後の成長を期待したい。</p>	⑪	内部の運営体制	11	10
		⑫	情報・相談・苦情	1	1
		⑬	ホームと家族との交流	3	3
		⑭	ホームと地域との交流	4	4

2. 評価報告書

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1 ○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			理念を職員全員で話し合い作成し、常に話題にし確認している。	
2	3 ○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○			入居時に充分説明しまた、掲示している。入居希望の見学者の方にも説明をしている。	
3	4 ○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			契約書及び重要事項説明書に明記し、入居時やその他必要に応じて入居者、ご家族に説明している。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5 ○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)		○		法人全体の後援会便りに様子を載せているが、ホーム便りは今後年3～4回の発行を予定しており充実を期待したい。運営推進会議は2回実施し地域の方も参加して理解や協力体制が出来てきた。	ホームと地域との交流、地域に根ざした支援のためにホーム便りなど積極的な取り組みをお願いしたい。
運営理念 4項目中 計		3	1	0		
	II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 ○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○			玄関前に円形の花壇やプランターがあり季節の花が咲いていた。ゆったりとした玄関にさりげなく飾り物が置かれ温かい雰囲気がある。	
6	7 ○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			廊下や居間に絵や装飾品が適度に飾られ家庭的な温かさが感じられる。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			リビング(椅子使用のこたつがある)のほかに独立した居間は炬燵がある和室と洋室があり、自由にゆったりと過ごせるスペースとなっている。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			テレビや椅子など家庭から使い慣れた品を持参してもらい、居心地よい暮らしの支援をしている。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			手すり、トイレ、洗面台の高さ、段差解消など入居者に合わせて工夫している。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			居室入り口には手作りの個性的な表札があり浴室には暖簾、トイレには馴染みやすい表示がされている。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			天井からの明り取りが工夫されている。必要に応じて職員が対応し、声のトーンにも不快にならぬように配慮している。訪問中はテレビはかけずに入居者の方々の和やかな会話が続いていた。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気よどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			換気を適宜行っている。温度や湿度の調節にも配慮している。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			カレンダーは日毎、月毎があり時計も見やすい高さに必要な数がある。自然に読めるような工夫がされている。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			畑作り、園芸、裁縫道具、掃除用具その他(ぬりえ、編み物など)必要なものを用意している。	
心身の状態にあわせた生活空間づくり 6項目中 計			6	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			アセスメントをもとにプランを作成している。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			会議のほか日々の申し送りで全員が把握できるようにしている。ファイルもいつでも見られる状態にある。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			面会時や電話にて希望や意見を聞き相談して作成している。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			3ヶ月に1度のモニタリングをしているが、状態に応じて随時の見直しを実施している。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。		○		記録はされているがケアプランに連動したものにはなっていない。適切な支援目標が作成できるように整理していただきたい。	ケアプランの様式を検討中でもあり連動した記録となるように職員の意志統一を期待したい。
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に言い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			日誌、申し送り簿、伝言板など活用しサインで確実に伝わるようにしている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			月2回の会議を実施し全職員参加のもと意見交換をしている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			6	1	0		

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項			
外部	自己									
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行								
22	27	○入居者一人ひとりの尊重と職員の穏やかな態度	○			常に傾聴を心がけ入居者が思っていることに向き合うよう心がけている。穏やかな話し方やプライドに配慮した対応をしている。				
23	28	職員の言葉かけや態度はゆったりしており、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)								
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。						○	生活歴の把握が不十分のためその人らしい生活の支援に反映されていないと感じている。	入居時のアセスメント票だけでなく家族や知人からの情報収集をして支援につなげることを期待したい。
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。						○	入居者が自分のペースで暮らせるようその人の気持ちを理解し、行動を見守り支援する努力を続けている。	
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)						○	外出や買い物などの希望を聞き自己決定を促すよう配慮している。また食事の嗜好なども希望を取り入れている。	
27	35	○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)						○	見守りや一緒に行うことにより方向付けができるように支援している。食事の準備や後片付けなど分担して行っており、役割があることに活き活きた表情が見られた。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。						○	全職員が認識しており、また、会議などでも確認しあい身体拘束のないケアを実践している。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	日中は鍵をかけていない。外出傾向にある方には見守りを重視し職員間で所在の確認をしている。敷地内は広いがそこから出て行きたい方には一緒に散歩したりして、納得しホームに戻れるような対応をしている。						
介護の基本の実行 7項目中 計			6	1	0					

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○ 馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			家庭で使用していた品を持参している。また、壊れたときは一緒に買い物に行き好みの品を購入している。	
31	44	○ 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			個別にあわせて食形態を工夫している。盛り付けなど料理に合った食器にしていた。	
32	45	○ 個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			カロリーの把握をしている。同法人の特養ホームの栄養士に定期的に献立を見てもらいアドバイスを受けている。	
33	47	○ 食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			各テーブルに職員が入り楽しく食事ができるようにさりげなく見守り支援している。入居者同士が会話を楽しみながら食事をしていた。	
		2) 排泄					
34 35	48 50	○ 排泄パターンに応じた個別の排泄支援と排泄時の不安や羞恥心等への配慮 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っており、排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。声かけ時にはさりげなく行いプライバシーに配慮し、プライドを傷つけないようにしている。	
		3) 入浴					
36	53	○ 入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			入居者の希望にあわせた温度や時間、回数に対応している。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髟、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			さりげない対応を心がけている。食べこぼしもさりげなくカバーしていた。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			状態の把握をしている。外気浴や戸外散歩、体操などで良眠を促すようにしている。現在はほとんどの方が良眠されている。	
日常生活行為の支援 8項目中 計			8	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			金銭を持つことの大切さを職員は理解している。希望にてホーム預かりでも買い物時は本人に渡し支払ってもらっている。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			食器洗い、食器拭き、モップがけ、おしぼりたたみなど一人ひとりの個性に合わせた役割分担を取り入れて活躍の場を見出すようにしている。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健師、看護師等)	○			協力医との連携体制が確保されている。また同法人の特養ホームの看護師との協力体制が確保されている。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			協力機関とは連絡を密にして対応している。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			年1回の健康診断を実施する計画をし、体制作りをしている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			毎日の体操、発声訓練(嚥下訓練の効果あり)、リハビリ体操、散歩、食材の買い物、準備や片付けなど自主的に協力し合う様子が感じられた。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			争いになりそうな雰囲気職員が察知し、トラブルの防止をさりげなく行っている。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			口腔内の状態に応じ個別に歯ブラシの種類や介助をし口臭予防に努めている。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			服薬内容や回数などを把握し服薬変更時は必ず申し送り、状況の変化などを観察し記録をしている。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			消防署による講習会を受けたり、マニュアルを作成し勉強会を行い、知識と技術の研修に努めている。年1回法人全体の研修会があり参加している。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			マニュアルを整備し活用して予防に努めている。インフルエンザ予防接種を実施している。	
医療・健康支援 9項目中 計			9	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			散歩は自由にしている。日常的に食材の買い物や近くの商店に出かけている。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			家族の面会時椅子式こたつで和やかな談笑が見られた。職員は居心地よく過ごせるよう配慮しお茶を出している。面会時間も特に設定なくいつでも気軽に訪問していただくようにしている。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 . 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			月1回の会議に上司(特養の副園長)も参加し協働のもと入居者の幸せな生活の実現をめざし、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			会議などで職員間の話し合いは良好に行われ意見を取り入れている。	
		2. 職員の確保・育成					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			変則勤務体制となっており、必要な時間に必要な人員を確保できるように配慮している。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。		○		研修には積極的に参加しているが研修内容の報告が周知されず共有できていない。会議や報告書の回覧などの工夫が必要である。	研修で得た事を皆で共有し、統一したケアの向上に活かしていただきたい。
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			業務上の悩みは上司に気軽に相談できる体制にあり、日頃の話し合いで職員間での解決が図られている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			情報をもとに職員間で検討の話し合いを実施している。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			話し合いを十分に行い説明し、退去先も入居者、家族と協議し支援している。	
		4. 衛生・安全管理					
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			マニュアル、チェック表を活用し清潔、衛生の保持に努めている。	
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬は鍵のかかる場所に保管し、刃物は夜に鍵のかかる食品庫に保管する。洗剤なども危険のないよう配慮した場所に行っている。	
62 ①	115	○緊急時の対応の周知・訓練 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明、災害等の緊急事態の対応策のマニュアルがあり、すべての職員が内容を熟知し、災害時の訓練を実施している。	○			マニュアル、連絡網の整備をし訓練を実施している。また夜間想定訓練もしている。	
62 ②	116	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後活かす意義づけ等)	○			事故につながりそうな気づきの記録、事故報告書の記録をし全員での再発防止の検討をし、予防に努めている。	
内部の運営体制 11項目中 計			10	1	0		
6.相談・苦情への対応							
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			重要事項説明書に記載し、契約時に説明しており掲示もされている。日頃から聞きとるように心がけ話しかけている。	
情報・相談・苦情 1項目中 計			1	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		7. ホームと家族との交流					
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			月に1回は生活の様子を伝えているほか面会時には必ず声をかけ生活の様子を伝え、希望や意見を引き出すように働きかけている。	
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)	○			家族会による家族奉仕日(窓拭きなど)、行事の日に写真やビデオ上映、ホーム便りなどで伝えている。	
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			契約時に家族に説明し相談している。出納帳、領収書を整備し面会時などに確認していただいている。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0		
		8. ホームと地域との交流					
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			運営推進委員会の参加、ボランティア実践塾の受け入れなど連携ができています。	
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			近くの小学校との交流があり、餅つき大会に参加したり、ホームを訪問してくれたりしている。隣近所との交流の充実を期待している。生け花のボランティアの訪問がある。	
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			消防、警察の方もホームを訪問し交流を持っている。近くの商店にはいつも買い物に行き馴染みの関係が築かれている。	
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)	○			小学校の家庭教育学級やホーム見学者等を受け入れ、認知症に関する理解や説明を行い地域への還元をしている。	
ホームと地域との交流 4項目中 計			4	0	0		